

**新規就農を呼び込み地域農業を活性化
～白鷹町の新規就農者確保・育成の中核を担う農業法人～**

合同会社紺野農園 代表社員 紺野伊久雄（白鷹町）

1 受賞者の概要

合同会社紺野農園（白鷹町畔藤、平成23年設立、構成員2名、経営面積2.2ha）は、ミニトマトを主体とする園芸農業により、優れた経営を行うとともに県内外の出身者を新規就農者として数多く育成し、地産地消や食育にも積極的に取り組んで地域に大きく貢献している。



紺野農園の社員

2 特色ある活動

(1) 周年農業の確立と有利販売の実現

ミニトマトを中心とした施設園芸と露地野菜を組み合わせた周年農業を実現し、周年雇用による安定した農業経営を確立している。また、自ら販売先を開拓するとともに、有機質肥料や堆肥、炭の施用による土づくりや鮮度保持のための予冷など品質の確保に努め、有利販売を実現している。

(2) 新規就農者の育成

これまでに多数の農業体験研修を実施するとともに19名（うち2名は現在、研修中）の長期研修生を受け入れ、13名が就農している。研修による技術習得のほか、農地や栽培施設、農機の入手、販売先の確保を支援するなどして、町内で就農する新規参入者の早期定着、定住に貢献している。



農業研修生

(3) 地域への貢献

町内の農産物直売所「どおりいむ農園直売所」で年間を通して多くの生産物を販売し、地産地消と地域の活性化に貢献している。また、紺野氏が白鷹町の町民向け農業講座「家庭菜園のススメ」の講師を務めるほか、従業員も白鷹中学校の授業で農業に関する講話を行うなど、農業や食に対する関心を深め農業の大切さを伝える取組を行っている。



「家庭菜園のススメ」講座

3 今後の発展方向

現在、紺野氏の孫が従業員として働きながら農業を学んでおり、今後、後継者としての活躍が期待される。農業生産においては、地域で年々増加する遊休農地を活用し、土地利用型作物を大面積で生産する取組を行う予定である。また、後継者不在の圃場や施設等に関する情報を収集し、これらを有効に活用して新規就農者の育成を進めていくこととしている。